

直説法現在、不規則変化

Q-1：直説法現在の語根母音変化とは？

動詞の形は基本的に変化しない「語根」と法・時制・人称数によって変化する「語尾」に分かれます。このように「語根」は基本的には変化しないのですが、一部の動詞で、しかもよく使われる動詞で変化するものがあります。それには母音に変化するタイプと子音に変化するタイプがあります。母音に変化するタイプの動詞を語根母音変化動詞と呼びます。

語根母音変化動詞には次の2つの規則が働きます。第1の規則「強勢規則」では、語根に強勢がかかる位置で(1, 2, 3人称単数と3人称複数)二重母音化します。語根のeに強勢があるときにそれがieになる場合と、語根のoに強勢があるときにそれがueになる場合があります。

第2の規則「語尾iの規則」では、語尾に母音のi¹があるとき、その語根は、iまたはuとなります。

pensar, *contar*やそれらと同じタイプの動詞では強勢規則が適用されます。*pedir*やそれと同じタイプの動詞では語尾iの規則が適用されます。*sentir*, *dormir*やそれらと同じタイプの動詞では強勢規則と語尾iの規則が適用されま²す。

この変化の動詞には大きく分けて次の5つの種類があります。ここでは*pensar*「考える」、*contar*「数える」、*pedir*「頼む」、*sentir*「感じる」、*dormir*「眠る」を例に説明しましょう。語尾は規則変化と同じです。

(a) *pensar*型と*sentir*型: 直説法現在ではどちらも同じところで語根母音が変わります³。YO、TÚ、ÉL、ELLOSの部分(太字の部分)でe > ieという変化(二重母音化)が起きます。ここは強勢がある部分です。

¹ ieのような二重母音ではなく、単母音のiです。

² どちらの条件にもあう活用形では強勢規則のほうが優先されます。

³ 他の法・時制では*sentir*型が少し違う形をとります。

(1) pensar

<u>pi</u> ens-o	pens-a-mos
<u>pi</u> ens-a-s	pens-á-is
<u>pi</u> ens-a	<u>pi</u> ens-a-n

(2) sentir

<u>sien</u> t-o	sent-i-mos
<u>sien</u> t-e-s	sent-ís
<u>sien</u> t-e	<u>sien</u> t-e-n

(b) contar型とdormir型: 直説法現在ではどちらも同じところで語根母音が変化します⁴。YO、TÚ、ÉL、ELLOSの部分でo > ueという変化(二重母音化)が起きます。ここは強勢がある部分です。

(3) contar

<u>cu</u> ent-o	cont-a-mos
<u>cu</u> ent-a-s	cont-á-is
<u>cu</u> ent-a	<u>cu</u> ent-a-n

(4) dormir

<u>du</u> erm-o	dorm-i-mos
<u>du</u> erm-e-s	dorm-ís
<u>du</u> erm-e	<u>du</u> erm-e-n

⁴ 他の法・時制では dormir 型が少し違う形をとります。

(c) pedir型: YO、TÚ、ÉL、ELLOSの部分で語根の母音がe>iに変化します⁵。

(5) pedir	
pid-o	ped-i-mos
pid-e-s	ped-ís
pid-e	pid-e-n

pedir型だけでなく、sentir型、dormir型にも「語尾iの規則」が適用されるのですが、直説法現在形では語根に強勢がなく、語尾がiでないという活用形がないので、それぞれpensar型、contar型を同じ語根になります⁶。

次が規則をまとめた表です。

不定詞	直現 1 単	強勢規則	語尾 i の規則	不定詞語尾
1. pensar	pienso	e > ie	-	ar, er
2. contar	cuento	o > ue	-	ar, er
3. pedir	pido	-	e > i	ir
4. sentir	siento	e > ie	e > i	ir
5. dormir	duermo	o > ue	o > u	ir

Q-2 : 語根に e や o が動詞はぜんぶ語根母音変化するのですか？

いいえ、次のように母音が変わらない規則動詞もたくさんあります。語根に e のある規則動詞はたくさんあります。たとえば、

presentar 「紹介する」	
present-o	present-a-mos
present-a-s	present-á-is
present-a	present-a-n

⁵ これを「閉母音化」といいます。

⁶ もちろん、語尾は pensar 型、contar 型と違います。

語根母音変化動詞と規則動詞を区別するために、次のように不定詞とともに直説法/現在/一人称単数(YO)の形を同時に覚えておく必要があります。

- pensar - pienso → 語根母音変化動詞
- pesentar - presento → 規則変化動詞

語根に o のある規則動詞もたくさんあります。たとえば、

ahorrar 「貯金する」	
ahorr-o	ahorr-a-mos
ahorr-a-s	ahorr-á-is
ahorr-a	ahorr-a-n

そのため、次のように不定詞とともに直説法現在の YO の形を同時に覚えておく必要があります。

- contar - cuento → 語根母音変化動詞
- ahorrar – ahorro 「貯金する」 → 規則変化動詞

Q-3 : jugar の活用は？

jugar 「遊ぶ」の直説法現在の活用は不定詞の語根母音は u ですが、o>ue の母音変化と同じように u>ue の変化します。

jugar (遊ぶ)	
jueg-o	jug-a-mos
jueg-a-s	jug-á-is
jueg-a	jueg-a-n

u>ue という二重母音化はこの動詞だけに特有です⁷。

⁷ 接続法現在と二人称単数形の命令形も同様に注意が必要です。

Q-4：直説法現在・語根子音変化とは？

語根の最後に子音がついたり、語根の最後の子音が変化したりするものがあります。「zc の動詞」と「g の動詞」があります。よく使われる動詞ばかりです。

Q-5：zc の動詞とは？

このタイプの動詞では次のように、直説法/現在/一人称単数形の語根に **zc** が現れます。conocer-conozco「(人や場所を)知っている」のように、不定詞形と直説法/現在/一人称単数形を同時に覚えましょう。

conocer	
conozco	conoc-e-mos
conoc-e-s	conoc-é-is
conoc-e	conoc-e-n

不定詞が母音+cerまたはcirで終わる動詞がこのパターンになります⁸。

- nacer-nazco (生まれる)
- parecer-parezco (見える)
- conducir-conduzco (運転する)

Q-6：g の動詞とは？

次の動詞は YO の形に **g** が現れます。

- hacer-hago (する、作る)
- poner-pongo (置く)
- salir-salgo (出る)

⁸ ただし、hacer と decir は次の-g-の動詞になります。

それ以外の人称では規則変化です。valer「価値がある」も同じパターンになります。

hacer	
hag-o	hac-emos
hac-e-s	hac-é-is
hac-e	hac-e-n

poner	
pong-o	pon-e-mos
pon-e-s	pon-é-is
pon-e	pon-e-n

salir	
salg-o	sal-i-mos
sal-e-s	sal-ís
sal-e	sal-e-n

Q-7: iがつくgの動詞とは？

次の3つの動詞では、YOの形のgの前にiという母音が現れます。

- caer-caigo (落ちる)
- traer-traigo (持ってくる)
- oír-oigo (聞く)

caer	
caig-o	ca-e-mos
ca-e-s	ca-é-is
ca-e	ca-e-n

traer	
traig-o	tra-e-mos
tra-e-s	tra-é-is
tra-e	tra-e-n

oír	
oig-o	o-í-mos
oy-e-s	o-ís
oy-e	oy-e-n

írには不定詞の語尾にアクセント符号をつけなければなりません⁹。そして語尾eの前でyが現れます

Q-8： 語根母音も変化する g の動詞とは？

次の3つの動詞では、YOの形にgが現れることの他に語根母音変化もあります。tener-tengo「持つ」は pensar 型、venir-vengo「来る」は sentir 型、decir-digo「言う」は pedir 型です。

⁹ 不定詞語尾に強勢があるのにアクセント符号がないと二重母音となって、oに強勢が移動してしまうからです。

tener	
teng-o	ten-e-mos
tien-e-s	ten-é-is
tien-e	tien-e-n

venir	
veng-o	ven-i-mos
vien-e-s	ven-ís
vien-e	vien-e-n

decir	
dig-o	dec-imos
dic-e-s	dec-ís
dic-e	dic-en

* これらの動詞に接頭辞をつけて派生した動詞も同じ活用パターンになります。

- deshacer-deshago 「壊す」
- componer-compongo 「組み立てる」
- sobresalir-sobresalgo 「抜き出る」
- decaer-decaigo 「衰退する」
- atraer-atraigo 「引きつける」
- mantener-mantengo 「維持する」
- intervenir-intervengo 「介入する」

Q-9：直説法現在・一人称単数が不規則な動詞は？

(1) **ir** 「行く」

非常に不規則な活用をします。

ir 「行く」	
voy	vamos
vas	vais
va	van

(2) **dar** 「与える」

YOの形が **doy** になります。また、語根に母音がないので強勢はすべて語尾にあります。二人称複数形にはアクセント符号がつきません。「単音節語にはアクセント符号をつけない」という原則に従います。

dar 「与える」	
doy	damos
das	dais
da	dan

(3) **saber** 「知る」

YOの形 **sé** は非常に特殊です。これは単音節語ですが、「単音節語で他に同綴りの語があれば強勢のあるほうの語にアクセント符号をつける」という規則に従います¹⁰。

saber 「知る」	
sé	sabemos
sabes	sabéis
sabe	saben

¹⁰ sé という語形は代名詞として使われるので、これと区別するために **saber** の YO の形にアクセント符号をつけます。

(4) ver 「見る」

YO の形だけが特殊で、vo ではなく veo となります。

ver 「見る」	
veo	vemos
ves	veis
ve	ven

* ir、dar、saber、ver の活用は固有のパターンなので、他の動詞でこの活用パターンに従うものはありません。

Q-10 : 直説法現在・語尾-uir の動詞は？

huir 「逃げる」は語尾の母音が i 以外の活用形で y が挿入されます。

huir 「逃げる」	
huyo	huimos
huyes	huís
huye	huyen

* この活用形式は uir という不定詞語尾を持つ動詞すべてに当てはまります。

- construir-construyo 「建設する」
- incluir-incluyo 「含める」。
- excluir-excluyo 「排除する」

スペイン語の質問

* 語根母音変化動詞の pensar と pedir で、同じ e の部分でも pensar では e → ie に変化して、pedir では e → i に変化するのはなぜですか。

→これは、e という母音によるのではなく、それぞれの動詞がどのような活用のタイプに属するのかによります。同じ e があっても、たとえば presentar の e は変化しません（規則動詞です）。

同じ「e」なのにこのような区別ができた理由はラテン語で母音が長短2種あったためです。長母音はそのままスペイン語に継承されましたが、短母音は e>ie という変化を受けました。これが pensar の活用形の原因です (e>ie, o>ue の変化は AR 動詞と ER 動詞に限ります)。一方、pedir は語尾の ir の部分の i が条件となり、異なる音変化を生みました (e>i の変化は IR 動詞に限ります)。

* なぜ不規則動詞が生まれたのですか？

→次が参考になると思います。「スペイン語の動詞活用」

- <http://lecture.ecc.u-tokyo.ac.jp/~cueda/gakusyu/katuyo.pdf>

* ir の不規則が v~で、ir と何の関係もないように見えますが…。

→voy, vas, va...はラテン語の他の動詞 (vadere「川を渡る」)を補充したものです。それで形がまったく違うことになりました。中世のスペイン語ではたとえば現代スペイン語の vamos の形ではなく imos という形も使われていました。

* 現在形の不規則活用は、どうして1人称単数の所ばかり不規則な活用なんですか。

→「g」の動詞は、ER 動詞と IR 動詞だけで、AR 動詞はありません。ER, IR 動詞の活用語尾を見ると、1人称単数形だけが後母音(o)となり、残りは全部、前母音(e, i)になります。このように後に続く母音の性質が条件となって、音韻が一定の変化をしたのです。たとえば、hago は-g-が2つの母音に囲まれていますね。そのために有声化していますが、他の位置では haces, hace, ...のように次の母音が前母音(e)なので、「c」の音が口の前の方で発音する英語の th のように音に変化しました。hago は次が後母音の「o」なので、そのような変化はしませんでした。decir-digo についても同じことが言えます。conocer-conozco は元の形が conozcer のような発音でした。これ前母音(e)の前では容易に conocer になりますが、[o]の場合は例外で「z」が残り、conozco という形が保たれています。他の動詞については、go 型の動詞と同じように変化する類推作用が働いたようです。

* スペイン語には助動詞がないのですか？

→querer, poder, ir a などが助動詞の部類に入ります。これらの動詞には次に不定詞が続き、不定詞の目的語が助動詞の前に置くことができます。たとえば、Lo vamos a ver. 私たちはそれを見ましょう。

* saber と conocer の意味の違いがよくわかりません。

→saber は基本的に知識として知っていることを示します。一方、conocer は経験によって知っていることを示します。次の例を参考にしてください。¿<Conoce> usted al señor Pérez? -- <Sé> quién es, pero sólo le <conozco> de vista. // あなたはペレスさんをご存知ですか。一どなたかはわかりませんが、ただお顔を存じているというだけでございます。

* -cer, -ner の 2 音節の動詞は go 型になりやすい？

→-cer の動詞はその前に母音があれば zc になりますが、hacer と cocer が例外です。また、-ner の動詞は、ほとんどがたとえば contener, componer などのように tener と poner の合成語になりますから、それらも同じように contengo, compongo というように変化します。これにも cerner という例外があります。お気づきのように単語は語尾から調べてみるといろいろな発見があります。そのような配列に資料を次の場所に作りましたので、参考にしてください。

<http://lecture.ecc.u-tokyo.ac.jp/~cueda/kenkyu/gyakubiki/index.php>

「逆引きスペイン語辞典」です。

* huís にアクセント記号がつくのはなぜですか？

→huís は本来ならば 1 音節語であり、しかも ui は閉母音の連続ですからアクセントは後の母音[i]にあるはずです。そこで、規則からはアクセント記号は不要なはずです。実際にスペインの言語アカデミー(1999)はアクセントのない形を認めています。一方、hu-ís というように、母音を分けて発音することもあるので、その場合はアクセントをつけてもよい、とも言っています。どちらのほうが多いのかはあまり書かれた資料の頻度がなくて正確には言えないのですが、16 世紀以降の近代スペイン語の資料を調べてみるとアクセント記号をつける方が断然多いようです。日本のスペイン語教育の辞書や参考書では従来から huís の形を載せています。私はアクセントを外してもよいので

はないかと思います。

*** 不規則動詞はこれで全部ですか？**

→基本的に現在形のタイプはこれで全部です。語根母音変化と **zc** の動詞、および **uir** で終わる動詞は他にもありますが、別のタイプがあるのではなく、ここで取り上げた代表形と同じ変化をします。

*** 不規則動詞は全部で何個ぐらいあるのですか？**

→試算では 800 位だと思います。しかし、これらは一定の規則に従っていませんから、初めは代表形をしっかり覚えましょう。次を参考にしてください。

<http://lecture.ecc.u-tokyo.ac.jp/~cueda/gakusyu/hukisoku.txt>

「不規則動詞対応表」です。